

第1部 環境基本計画の推進

第1章 エコポリス板橋をめざして

1 板橋区の環境に関する主な取り組み

(1) 板橋区とSDGs

2015（平成27）年9月に国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」において、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が、193加盟国の全会一致で採択されました。

アジェンダにおいて掲げられた2030（令和12）年を年限とする国際目標が持続可能な開発目標（SDGs）であり、持続可能な世界を実現するための17のゴールと、それらを達成するための具体的な169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。

板橋区においては、「板橋区基本計画2025」を着実に推進していくためのアクションプログラムである「いたばしNo.1実現プラン2021」をはじめとして、積極的にSDGsの視点を取り入れ、環境面からだけでなく経済面及び社会面から総合的なアプローチをすることにより、施策の推進を図っています。また、日本経済新聞社産業地域研究所「SDGs先進度調査」において、板橋区は全国総合8位（都内1位）という評価を得ました。（「日経グローバル」355号（2019（平成31）年1月7日発行）



SDGsの17のゴール

- 1 あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ
- 2 飢餓を終わらせ、食料安全保障と栄養改善を達成し、持続可能な農業を推進する
- 3 健康な生活を保障し、全ての年齢層の全ての人々の良い暮らしを推進する
- 4 全ての人々に、包摂的で公平な、良質な教育を保証し、生涯にわたる教育機会を促進する
- 5 ジェンダーの平等を達成し、全ての女性と女児のエンパワーメントを図る
- 6 全ての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する
- 7 全ての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する
- 8 持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する
- 9 強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る
- 10 国内および国家間の格差を是正する
- 11 都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする
- 12 持続可能な消費と生産パターンを確保する
- 13 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る
- 14 海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する
- 15 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る
- 16 持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、全ての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
- 17 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化

(2) 板橋区の環境とSDGs

持続可能な開発目標（SDGs）を達成していくためには、17のゴールが相互に関連しているのと同様に、環境関連事業についても、一つの事業を「環境」のみならず、「教育」「経済」「社会」などの様々な視点からアプローチすることにより、それぞれの成果が相互に関連しながらSDGsの目標達成に寄与していくものと考えます。板橋区で取り組む環境関連事業は、気候変動対策をはじめとするSDGsの目標達成に寄与しています。

① 「みどりと文化の交流協定」に基づく木材利用と森林環境教育

都市と山村の触れ合いをめざし、緑を愛し文化を大切にすることを通わせる交流を目的として、1983（昭和58）年に板橋区と栃木県栗山村（現日光市）は友好都市となり、「みどりと文化の交流協定」が締結されました。その後、栗山村（現日光市）からの寄贈により「板橋区の森」が誕生し、環境学習や森林ボランティアによる活動が行われてきました。

さらに、2011（平成23）年には、「みどりと文化の交流協定」に基づき、日光市産の木材の使用と環境教育についての覚書が交わされ、板橋区立学校施設の改築計画をはじめとした学校施設整備に係る木材資材は、日光市産のスギやヒノキなどの木材を使用するよう努めることや、日光市から板橋区の生徒・児童に対して環境教育の機会と場を提供してもらうこととなりました。

森林資源を活用することで、木の循環利用や環境問題などを学習するための「環境」教育の場となり、また日光市産木材を学校施設に使用することで地域の「経済」に貢献し、さらにCO₂排出削減にも大きく寄与しています。（「板橋区

の森」についてはP63ページ参照）



日光市産の木材を使用した大階段（板橋第一小学校）



日光市産の木材を使用した下駄箱（中台中学校）

② 全国に広がる地域ぐるみで取り組む「緑のカーテン」

ハチマやゴーヤーなどのつる性植物を窓の外に茂らせ、夏の強い日差しや外からの熱を和らげることで室温の上昇を抑え、エアコンの使用を抑制するなどの省エネ効果のある「緑のカーテン」は、学校教育における地球温暖化対策への取り組みとして、全国に先駆けて始まりました。

「緑のカーテン」は太陽光の遮蔽や葉の蒸散作用による涼しさを体感できる「生きた教材」であり、板橋区立小中学校をはじめとして「緑のカーテン」を育てることで環境保全に対する教育が進められています。また、集会所に「緑のカーテン」を設置してゴーヤーパーティを

開くなど、町会や商店街など町ぐるみで緑のカーテンに取り組むことで、地域の結びつきを生み、地域の活性化と地球温暖化対策の推進につながる「社会」活動となっています。（「緑のカーテン」についてはP27ページ参照）



緑のカーテンでヘチマを収穫する園児



集会所の緑のカーテン



板橋区立熱帯環境植物館

また、区立中学生のマレーシア派遣事業により、国際「社会」との人的交流も行われており、マレーシアとの交流を通して、「社会」「環境」「教育」の各分野が相互に連携しながら、SDGsの目標達成に向けて相乗効果を生み出していると言えます。（「熱帯環境植物館」についてはP142ページ参照）

③ マレーシアと板橋区の環境を通じた交流

板橋区立熱帯環境植物館は、隣接する板橋清掃工場でのごみ焼却の際に生じる余熱を利用した省エネルギー型施設であり、東南アジアの熱帯雨林をはじめ、地球規模の環境問題に関する知識の普及・啓発を図っています。開設当初より、マレーシア・ペナン州立ペナン植物園との交流も続いており、植物・種子の交換や技術交流などを行い、友好関係を深めてきました。

(3) 国連気候変動枠組条約第24回締約国会議（COP24）への参加

COP24が、2018（平成30）年12月2日～15日にかけて、ポーランド・カトヴィツェにおいて、開催されました。会期中に開催された、ジャパンパビリオンにおける国内外の自治体代表によるセッションに、坂本区長が登壇しました。坂本区長は、ジャパンパビリオンでのスピーチで、「持続可能な社会の担い手の育成」をめざす環境教育を中心に、熱帯環境植物館開設から続くマレーシアとの交流、区の施策とSDGs（持続可能な開発のための目標）との関連性、小・中学校での日光市産木材の活用事例など、都市と地方とがエネルギーや地域資源を補完し合う循環共生型社会への取り組みについて

紹介しました。さらに、板橋区は、パリ協定で確認された「今世紀後半の人為的な温室効果ガス排出実質ゼロ」という目標を世界と共有し、各自治体とも連携しながら、地球温暖化対策を進めていくことを表明しました。

さらに、カトヴィツェ市の主催による自治体代表者による会議「カトヴィツェ・クライメイト・シフト」に参加、国内外の自治体の首長と脱炭素化に向けた取り組みについて情報交換しました。



ジャパンパビリオンセッション



カトヴィツェ・クライメイト・シフトの集合写真

2 板橋区の環境問題と環境行政

区内でも有数の工業地帯として発展してきた板橋区は、昭和30年代後半からの高度経済成長期に大気汚染・水質汚濁・地盤沈下・地下水汚染等の多くの公害に悩まされました。昭和50年代後半になると、関係法令等の整備により、発生源規制の強化が行われたと同時に、企業の公害対策が進められたことなどにより、工場公害は大幅に改善されました。ところが、近年は、工場跡地等の再開発等に伴い、土壌汚染等の新たな問題も顕在化してきています。また、モータリゼーションの進展や1978（昭和53）年の首都高速5号線開通により、大和町交差点の大気汚染が全国ワースト1になるなど、新たな環境問題として自動車公害が大きな課題となりました。自動車公害による大気汚染については、大和町交差点のオープンスペース化、自動車NO_x・PM法の制定、九都県市指定低公害車や東京都のディーゼル車対策等により、ピーク時と比較すると徐々に改善してきています（図1-1-1）。

板橋区は、1969（昭和44）年に公害課を設置し、規制・指導・監視を中心とした公害対策をスタートしました。その後、1987（昭和62）年に快適環境懇談会を設置し、都市生活型公害や地球環境問題等を含めた環境行政に転換して、取り組みを進めてきました。

1993（平成5）年4月、環境と共生するまちづくりの実現をめざして「『エコポリス板橋』環境都市宣言」を行い、1995（平成7）年4月、環境・リサイクルに関する総合的啓発拠点施設として「エコポリスセンター」を開設しました。エコポ

リスセンターは、区民・環境団体・事業者への情報提供や環境教育・環境学習活動の場として現在も活用されています。

1999（平成11）年には、区自身の環境への活動推進を目的として「板橋区環境マネジメントシステム」を構築し、都内の自治体で初めてISO14001の認証を取得しました。また、同年には、区の環境に関する総合的・長期的な指針として「板橋区環境基本計画」を策定し、“環境都市”づくりの推進を図りました。なお、環境基本計画については、区を取り巻く環境や社会状況の変化を考慮し、様々な問題に適切に対応していくため、2005（平成17）年には「改訂版」、2009（平成21）年には「第二次」、2016（平成28）年には「2025」を策定するなどして適宜見直しを図っています。現在は、2016（平成28）年3月に策定した「板橋区環境基本計画2025」のもと、脱炭素社会や循環型社会実現への取り組み、自然環境や生物多様性の保全、快適な生活環境の実現、環境教育の推進など今日的な課題に幅広く取り組んでいます。

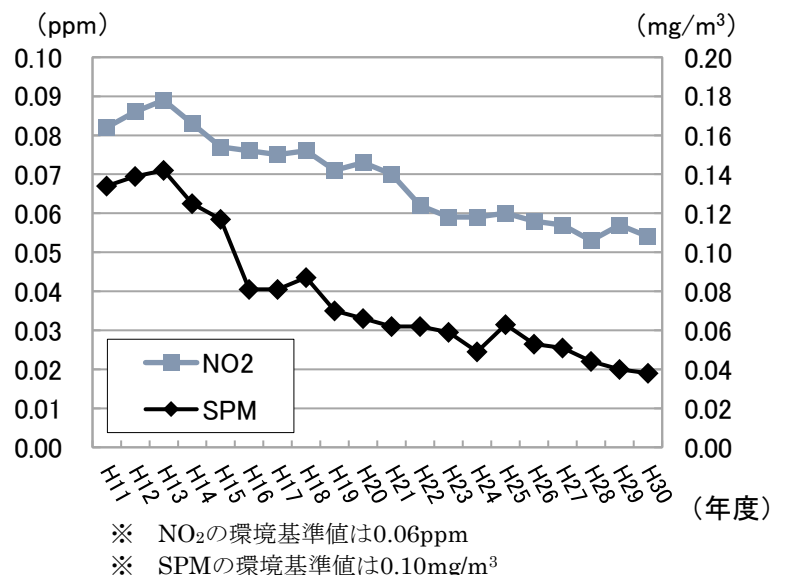


図1-1-1 徐々に改善してきた大気汚染
(大和町交差点の大気汚染の推移)

3 「板橋区環境基本計画2025」とSDGs

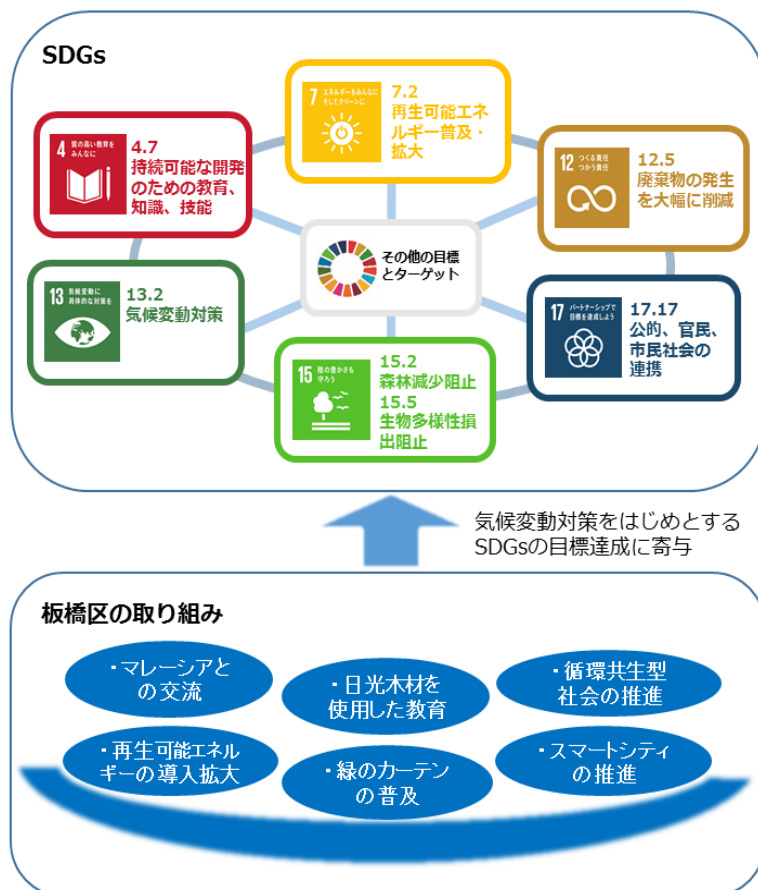
板橋区環境基本計画2025では、“脱炭素社会の実現※” “循環型社会の実現” “自然環境と生物多様性の保全” “快適で健康に暮らせる生活環境の実現” “「環境力」の高い人材の育成” “パートナーシップが支えるまちの実現” の6つの基本目標を掲げ、それぞれに取り組むべき施策（環境施策）を設定しています。

それぞれの基本目標を達成し、持続可能なまちを実現するためには、これらのうちのどれか一つを追求するのではなく、全てをバランス良く実施していく必要があります。

本書第2部以降で紹介する取り組みは、板橋区環境基本計画2025で掲げた基本目標に沿った形で掲載していますが、そ

れぞれは、単に一つの「環境」問題を克服するためだけのものではなく、「経済」「教育」「社会」などの幅広い分野とも密接に関わり、相乗効果を生み出す可能性を含んでいます。基本目標実現に向けて、“環境問題を克服する”ことが、同時に“地域の活性化” “環境教育の充実” “協働による社会活動推進” などにもつながっていくことを各主体が認識し、相互に連携しながら取り組みを推進することが重要となります。

このように、板橋区環境基本計画2025における基本目標実現に向けたアプローチは、SDGsとの親和性が高く、SDGsの目標達成に寄与していると言えます。



※ 環境基本計画2025策定当時の基本目標1は「低炭素社会の実現」ですが、その後は「脱炭素社会の実現」に踏み込んだ施策を進めているため、本白書では「脱炭素社会の実現」と読み替えることとします。

第2章 板橋区環境基本計画

板橋区環境基本計画は、1999（平成11）年3月に策定して以降、これまでに3回の見直しを図っています。各計画は、策定当時の環境課題や社会状況の変化を的確に捉え、課題の解決に結びつく施策を打ち出してきました。

- 板橋区環境基本計画（第一次）：
1999（平成11）年3月策定



板橋区で最初に作られた環境基本計画で、通称は「第一次」。従前の公害対策や自然保護といった問題に加え、都市・生活型公害や地球環境問題などの新たな課題にも対処するため策定されました。

本計画が掲げた板橋区の望ましい環境像は、循環・共生を推進する環境都市～板橋～と、パートナーシップが支える環境都市～板橋～。

この2つの望ましい環境像を踏まえて、環境の質の面から、①健康と安全②自然とアメニティ③地球環境問題④循環型社会の構築の4つに分けて課題を整理し、施策を体系づけるとともに、環境を保全していく主体の面から、①区②区民・民間団体③事業者の3つの立場からも課題を整理し施策を展開しました。

- 板橋区環境基本計画（改訂版）：
2005（平成17）年3月策定

第一次計画の策定から5年が経ち、深刻な地球温暖化の進行や有害化学物質による汚染の拡がり、廃棄物行政のシステム確立、清掃事業移管をはじめとする都区制度改革や地方分権の推進など、区の環境行政を取り巻く状況は大きく変わったことから、第一次計画を見直し、「改

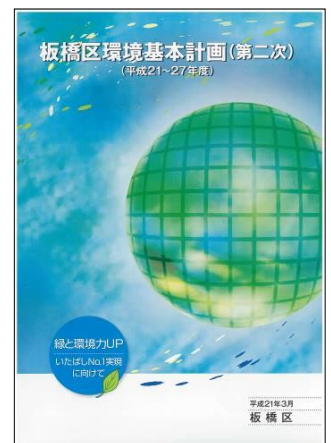
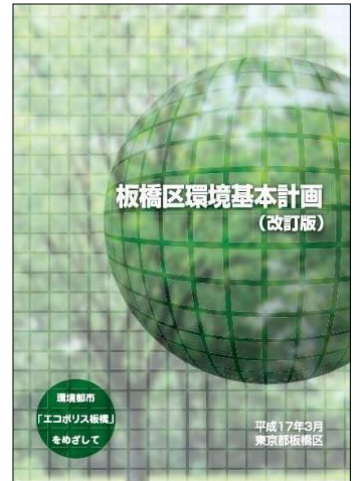
訂版」を策定しました。

本計画では、計画の見直しに際し公募区民の提案を反映した「区民参加による計画見直し」、「地球温暖化対策」を重点テーマとして位置づけた「取り組みの重点化」、取り組みの進捗状況を把握するための「環境指標の設定」の3点を中心とした見直しを行いました。

- 板橋区環境基本計画（第二次）：
2009（平成21）年3月策定

地球温暖化問題に関する世界的な意識の高まりや、都市部を中心とするヒートアイランド問題の深刻化など、環境行政を取り巻く状況の変化を受け、改訂版の計画期間（～2008（平成20）年度）の満了とともに「第二次」計画を策定しました。

本計画では、新たな視点として、「パートナーシップ（協働）」の考え方にに基づき、区が主体的に実施する環境施策以外で、区民や事業者が主体的に取り組む“協働プロジェクト”を設定しました。このプロジェクトは、公募区民で構成された「環境ワークショップ」から提案されたもので、“省エネキャラバン”“緑が豊かな街”“区民のやる気を引き出そう”の3プロジェクトがモデル案となりました。



1 「板橋区環境基本計画2025」について

第二次計画の策定以降、東日本大震災に伴うエネルギー需給のひっ迫による省エネルギーへの取り組みや再生可能エネルギー導入の加速化、人口減少社会への移行など、環境行政を取り巻く状況が変化してきました。また、水素エネルギーの活用など新技術の発展、国際社会における新しい温暖化対策の枠組みへの合意など、今後も環境を取り巻く状況は変化していくものと想定されています。

そこで、第二次計画の期間満了

(2015(平成27)年度)にあたり、このような状況変化への対応を図り、板橋区における環境保全の取り組みをより効果的に進めていくため、2016(平成28)～2025(令和7)年度を計画期間とする新たな環境基本計画として、「板橋区環境基本計画2025」を2016(平成28)年3月に策定しました。

本計画は、“環境像”＝概ね10年後のめざすべき環境の姿(図1-2-1)を設定するとともに、環境像のもと、個別分野ごとの環境課題に対応した6つの基本目標を設定しています(図1-2-2)。

人と緑を未来へつなぐスマートシティ“エコポリス板橋”

区の環境の将来像＝10年後の姿

武蔵野の面影を残す徳丸・赤塚の樹林地、広大な河川敷を有する荒川や美しい桜並木に彩られる石神井川など、緑と水やきれいな空気に囲まれ、生物の多様性が保全されるなど、自然環境との共生が進んでいます。

またスマートシティに向けてICT技術(情報通信技術)など最先端の技術が整備され、エネルギーを効率的に生みだし使用するライフスタイルが定着するとともに、水素や再生可能エネルギーなどの有効な資源の活用が進み、環境や防災面で持続可能な脱炭素社会を実現するまちづくりが進んでいます。

さらには、区民一人ひとりや事業所のごみ減量・リサイクルなど環境に対する意識が高く、世代や職業、地域の枠を越えて、地域全体が連携して活動が進み、資源循環型社会が実現しています。

「人」

身近な環境を守り、育て、よりよい環境をつくっていくためには、人(個人、事業者、地域など)の意識を環境にシフトし、実際に行動に移していきながら、様々な人が協働して進めていくことがとても大切です。

「緑」

身近に緑や水などの豊かな自然があるまちづくりを進め、安心安全でやすらぎのある環境をつくっていくことが大切です。

「未来」

板橋の宝である子どもたちや豊かな暮らし、そして緑や水などの豊かな自然環境など、持続可能な発展を象徴しています。未来を担う子どもたちが環境と共存・調和しながら将来にわたり持続的に快適な都市環境を実現することが大切です。

「スマートシティ」

あらゆる社会インフラにICT技術などの先端技術を活用してスマート化し、安心安全、便利で無駄のない暮らしや経済活動の実現をめざすかしこいまちづくりを進めていくことが大切です。

「エコポリス板橋」

平成5(1993)年4月、環境都市宣言を行い、人と環境が共生する都市“エコポリス板橋”の実現をめざすまちづくりを進めています。

図1-2-1 「板橋区環境基本計画2025」が掲げる環境像

基本目標1

低炭素社会の実現

～エネルギーのスマート化による
温室効果ガスの排出が少ないまちづくり～



【分野】 エネルギー・気候変動 など

基本目標2

循環型社会の実現

～ごみの発生抑制と資源を循環利用する
社会システムづくり～



【分野】 ごみ・資源 など

基本目標3

自然環境と生物多様性の保全

～緑と水と生きものに囲まれた
都市空間の創造～



【分野】 緑・水・生きもの など

基本目標4

快適で健康に暮らせる生活環境の実現

～社会活動に伴って発生する
環境負荷の削減と生活環境※の向上～



【分野】 大気環境・美化・景観 など

基本目標5

「環境力」の高い人材の育成

～環境に配慮したライフスタイルの実現
に向け主体的に行動できる人づくり～



【分野】 環境教育・環境情報 など

基本目標6

パートナーシップが支えるまちの実現

～自助・共助・公助の連携による
地域環境づくり～



【分野】 環境保全行動 など

図1-2-2 「板橋区環境基本計画2025」の6つの基本目標

※ 「生活環境」は、人の健康や人の生活に密接に関係のある様々なものを対象とします。

出典：板橋区環境基本計画2025（2016（平成28）年3月策定）
（本計画策定当時の基本目標1は「低炭素社会の実現」）

2 計画の推進と進行管理

(1) 進行管理の体制

「板橋区環境基本計画2025」（以下「現行計画」という。）を実効性のあるものとしていくため、計画の進行管理を行います。計画の進行管理は、学識経験者などで構成された区の附属機関である「板橋区資源環境審議会」および庁内検討組織である「『エコポリス板橋』推進本部」により行われます。また、環境保全活動に関する区民や事業者への普及啓発や区との連絡調整のため、区民や事業者などによる「エコポリス板橋環境行動会議」と連携しながら計画を推進していきます。進行管理の体制と各組織の役割は以下のとおりです（図1-2-3）。

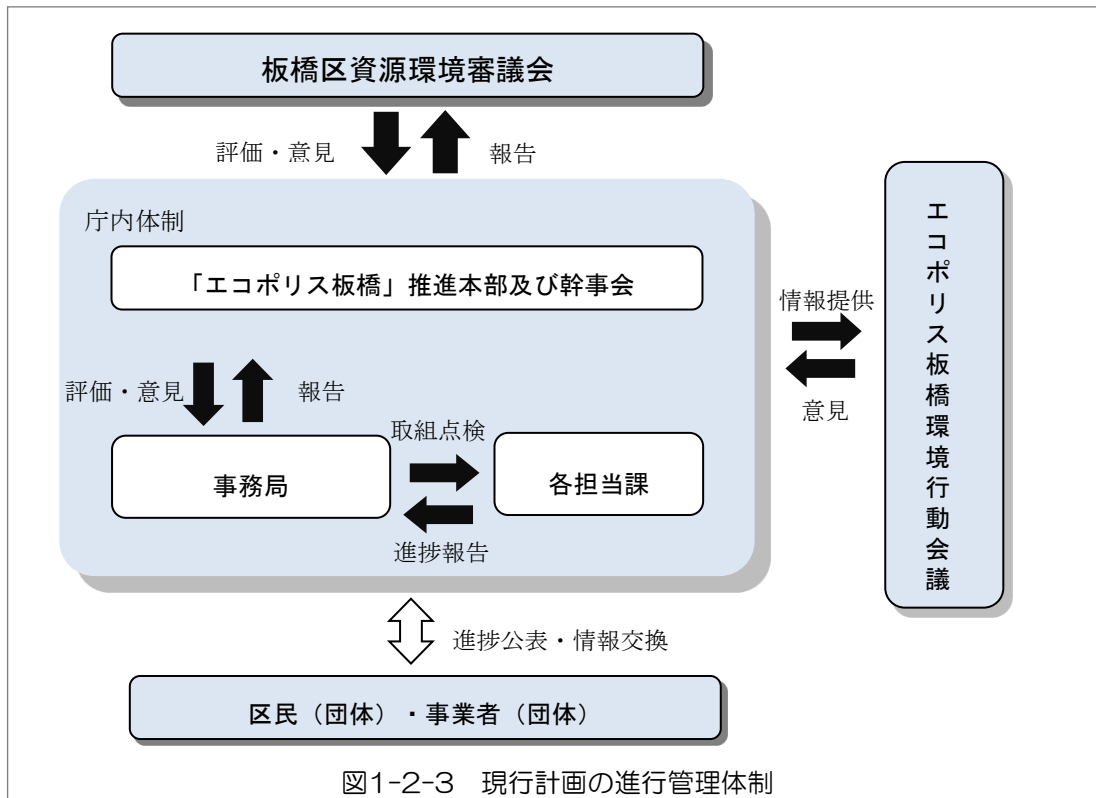
(2) 現行計画の進行管理

計画の進行管理を適切に行うためには、計画の達成度を評価するための指標の設定が重要となります。

現行計画では、6つの基本目標に対する

達成状況を評価する「環境指標」と、環境施策の活動状況を把握する「活動指標」の2種類を設定しています。環境指標は、環境保全に資する取り組みを実施した結果、区民などにもたらされた影響を数値化したもので、原則としてアウトカム指標（成果指標）を用いています。一方、活動指標は、取り組みの具体的な活動量（「何をどの程度提供したか」など）を定量的に示したもので、原則としてアウトプット指標を用いています。また、どちらの指標にも、その数値の増減が良い方向に向かっているのか、または悪い方向に向かっているのかを判断する基準として「めざす方向性」を示しています。（数値の増減で良し悪しを評価することができないものについては「－」で示しています。）

現行計画では、これらの指標の数値変化などをもとにして進行管理を行っていきます。



① 環境指標による進行管理

2018（平成30）年度における環境指標の実績と達成状況は以下のとおりです。

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	目標値 令和7年度	実績値 平成29年度	実績値 平成30年度	達成率	進捗度 ※8
基本目標1：脱炭素社会の実現							
区内エネルギー消費量 (熱量換算)	24,307 TJ※1	↘	22,901 TJ※2	22,054 TJ※3	21,539 TJ※4	100% 以上	順調
区内温室効果ガス排出量	231.4万t-CO ₂ ※1	↘	220.1万t-CO ₂ ※2	210.8万t-CO ₂ ※3	205.8万t-CO ₂ ※4	100% 以上	順調
基本目標2：循環型社会の実現							
区民一人当たりの一日の ごみ排出量	689 g※5	↘	598 g※6	—	646g	47.2%	順調
リサイクル率	21.5 %※5	↗	28.0 %※6	—	22.2 %	10.7%	停滞
基本目標3：自然環境と生物多様性の保全							
区全体の植生被覆率	18.3 %	↗	21 %	— %※7	— %※7	—	—
公園率	5.9 %	↗	6.1 %	5.9 %	5.9 %	0%	停滞
石神井川における生物化学的 酸素要求量 (BOD75%値)	0.7 mg/L	↘	1.0 mg/L以下	1.2 mg/L	1.2 mg/L	—	停滞
白子川における生物化学的酸 素要求量 (BOD75%値)	3.8 mg/L	↘	2.0 mg/L以下	3.2 mg/L	3.0 mg/L	44.4%	順調
基本目標4：快適で健康に暮らせる生活環境の実現							
微小粒子状物質(PM2.5)の基準 値Bレベル以上の日数	25 日	↘	23 日	15 日	9 日	100% 以上	順調
騒音に係る環境基準の達成率	79 %	↗	85 %	85 %	84 %	83.3%	順調
基本目標5：「環境力」の高い人材の育成							
人材育成に関わる環境講座参 加者数	199 人	↗	400 人	241 人	336 人	68.2%	順調
外部人材を活用した環境学習 実施校(園)の割合	76.1 %	↗	100 %	66.7 %	67.5 %	0%	停滞
環境教育プログラム利用校(園) の割合	74.4 %	↗	100 %	74.6 %	82.5 %	31.6%	順調
エコ生活(アクション9)の実施 状況	75.0 %	↗	100 %	83.7 %	81.7 %	26.8%	停滞
基本目標6：パートナーシップが支えるまちの実現							
全区民参加型環境保全キャン ペーン参加者数	25,674 人	↗	31,500 人	27,892 人	26,544 人	14.9%	停滞
エコポリスセンター事業への ボランティア等参加者数	990 人	↗	1,300 人	842 人	981 人	0%	停滞
環境登録団体数	27 団体	↗	37 団体	29 団体	27 団体	0%	停滞
環境学習講師派遣人数	363 人	↗	500 人	235人	222人	0%	停滞

※1：平成24年度 ※2：平成32年度（「板橋区地球温暖化対策実行計画 区域施策編」の目標年度）

※3：平成27年度（オール東京62市区町村共同事業「特別区の温室効果ガス排出量」より） ※4：平成

28年度（オール東京62市区町村共同事業「特別区の温室効果ガス排出量」より） ※5：平成30年度に

旧計画から新計画に移行した「板橋区一般廃棄物処理基本計画2025」の基準年値 ※6：平成30年度に

旧計画から新計画に移行した「板橋区一般廃棄物処理基本計画2025」の目標値 ※7：植生被覆率は5年

ごとの調査 ※8：計画最終年度の目標達成に向けた進捗状況。基準年値と比較して実績値がこのままの

ペースで推移した場合に、達成率が100%以上になるものを「順調」、100%に届かないものを「停滞」

とした。（平成30年度については、10か年計画の3年度目（一部を除く）であるため、達成率が30%以

上になるものを「順調」とした。なお、基本目標2については、「板橋区一般廃棄物処理基本計画2025」

の計画期間が平成30年度から始まる8年間であるため、達成率は1年あたり12.5%以上になるものを「順

調」とした。）

環境指標の進捗状況概要

基本目標1：脱炭素社会の実現

➤ 進捗状況

区内エネルギー消費量及び区内温室効果ガス排出量は、共に「順調」に推移した。東日本大震災以降における節電への取り組みの定着等により、エネルギー消費量の減少傾向が続いているほか、再生可能エネルギーによる発電量の増加等により、電力の二酸化炭素排出係数が緩やかに低下し、温室効果ガス排出量の減少につながった。

(関連ページ：P21～)

基本目標2：循環型社会の実現

➤ 進捗状況

区民一人当たりのお一日のごみ排出量は減少を続けており、「順調」に推移している。一方、リサイクル率はここ数年横ばいで推移しており、「停滞」している。要因としては、新聞・雑誌の発行部数の減少や書籍の電子化等による資源回収量の減少の影響が、ごみ排出量の減少の影響を上回ったことが考えられる。

(関連ページ：P50、P59)

基本目標3：自然環境と生物多様性の保全

➤ 進捗状況

公園率は、前年度から新設された公園がなかったため、数値に変化はなかった。生物化学的酸素要求量（BOD75%値）については、石神井川では変化がなかったが、白子川では前年度からさらに数値が改善された。目標値には依然として達していないが、前年度に引き続き、環境基準については達成している状況である。なお、生物化学的酸素要求量は、単年度では数値の上下があるものの、石神井川では、平成元～10年度の平均が約2.8mg/L、11～20年度の平均が約1.6mg/L、21年～30年度の平均が約1.1mg/Lとなってお

り、長期的な視点で見れば水質は概ね改善の方向で推移していると考えられる。(関連ページ：P73、P74～)

基本目標4：快適で健康に暮らせる生活環境の実現

➤ 進捗状況

微小粒子状物質(PM2.5)は、平成26年度以降、年間を通じた測定結果が得られ、基準値Bレベル以上の日数は減少傾向にある。この理由としては、工場などのばい煙発生施設の規制や自動車排気ガス規制などが考えられる。騒音に係る環境基準の進捗率は上昇傾向にある。理由としては、近年の自動車性能の向上及び低騒音型の路面舗装の普及が考えられる。

(関連ページ：P89～、P99～)

基本目標5：「環境力」の高い人材の育成

➤ 進捗状況

人材育成に関わる環境講座参加者数及び環境教育プログラム利用校(園)の割合はそれぞれ数値を伸ばし、「順調」に推移した。一方、外部人材を活用した環境学習実施校(園)の割合及びエコ生活(アクション9)の実施状況はそれぞれ減少し、「停滞」の評価となった。外部人材を活用した環境学習実施校(園)の割合は区立保育園・幼稚園におけるエコポリスセンターの出前講座の活用率が低いことが挙げられる。(関連ページ：P132～)

基本目標6：パートナーシップが支えるまちの実現

➤ 進捗状況

全区民参加型環境保全キャンペーン参加者数をはじめ、全ての指標について「停滞」の評価となった。全区民参加型環境保全キャンペーンについては、「打ち水キャンペーン」において夏の猛暑により各町会のイベント等が中止になったことが、参加者数の減少の要因と考えられる。(関連ページ：P147～)

② 活動指標による進行管理

2018（平成30）年度における活動指標の実績は以下のとおりです。なお、「進捗度」については、基準値に対して実績値が5%以上増加（「めざす方向

性」が下向きの場合は減少）したものを「進展」、5%以上減少（同増加）したものを「後退」、増減が5%未満のものを「横ばい」としています。

	指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	実績値 平成29年度	実績値 平成30年度	進捗度
基本目標1	▶環境施策1-①：区民・事業者における省エネ・再エネの推進					
	区内の住宅用太陽光発電システム導入発電容量	4,611 kW	↗	5,579 kW	5,796kW	進展
	区公共施設における緑のカーテン実施施設数	180 施設	↗	166 施設	161 施設	後退
	環境マネジメントシステム新規構築事業所数	14 事業所	↗	17 事業所	24 事業所	進展
	新エネルギー・省エネルギー機器設置補助件数	347 件	↗	321 件	305 件	後退
	▶環境施策1-②：建物や交通などインフラの低炭素化の促進					
	「板橋区建築物等における省エネルギー・環境配慮に関する指針」に基づく省エネ建築物受付件数	57 件	↗	55 件	51 件	後退
	街灯の更新	— 基	↗	4,409 基	7,898 基	—
	区役所で使用している自動車の低公害車率	74 %	↗	73 %	73 %	横ばい
	自転車道整備延長距離（累計）	4,670 m	↗	4,670 m	4,670 m	横ばい
基本目標2	▶環境施策2-①：板橋かたつむり運動の推進					
	ごみ減量に関する出前講座の実施回数	43 回	↗	41 回	44 回	横ばい
	資源回収品目数	11 品目	↗	11 品目	11 品目	横ばい
	リサイクル推進員研修会参加者数	433 人	↗	410 人	302 人	後退
	小型家電の資源売却量※1	544,570 kg	↗	480,435 kg	502,856 kg	後退
	いたばしエコ・ショップ（ゴールド）認定数	— 事業所	↗	2 事業所	—※2	—
	▶環境施策2-②：適正で効率的なごみ収集・処理体制の構築・運用					
	家庭ごみの排出量（可燃・不燃・粗大ごみ）	110,742 t	↘	108,173 t	107,402 t	横ばい
	事業系ごみの排出量（可燃持ち込みごみ）	29,520 t	↘	30,083 t	31,537 t	後退
	資源の回収量	13,869 t	↗	13,357 t	13,101 t	後退
高齢者・障がい者などに対する戸別収集件数	783 件	↗	822 件	834 件	進展	
集団回収登録団体数	883 団体	↗	906 団体	906 団体	横ばい	
基本目標3	▶環境施策3-①：板橋らしい良好な緑や水環境の保全・創出					
	緑化指導に基づく緑化箇所数	90 件	↗	79 件	92 件	横ばい
	緑化指導に基づく緑化面積	59,617 m ²	↗	10,605 m ²	16,544 m ²	後退
	地域がつくる公園制度導入公園数	27 公園	↗	29 公園	28 公園	横ばい
	花づくり活動登録グループ数	83グループ	↗	81グループ	82グループ	横ばい
	保存樹木指定本数	1,842 本	↗	1,826 本	1,798 本	横ばい
雨水流出抑制量	4,119 m ³	↗	5,619 m ³ ※3	4,489 m ³ ※4	進展	

※1：小型家電の資源売却については、金属価格の下落による逆有償（排出側が処理側に代金を支払うこと）が発生し、売却が困難な状態となっているため、基準年値・実績値ともに、「資源回収量」を掲載した。

※2：平成30年3月末にて事業終了

※3：平成28年度実績値

※4：平成29年度実績値

指標名		基準年値 平成26年度	めざす 方向性	実績値 平成29年度	実績値 平成30年度	進捗度
基本目標3	▶環境施策3-②：自然とのふれあい促進や自然の恵みの享受					
	グリーンフェスタ参加者数	8,073 人	↗	5,450 人	4,780 人	後退
	緑のガイドツアー参加者数	102 人	↗	125 人	117 人	進展
	熱帯環境植物館来館者数	103,925 人	↗	115,079 人	122,021 人	進展
	エコポリスセンター「環境観察員」登録者数	57 人	↗	56 人	53 人	後退
	区民農園応募者数	3,144 世帯	↗	2,927 世帯	2,766 世帯	後退
基本目標4	▶環境施策4-①：大気汚染や騒音などのない生活環境の保全					
	公害苦情件数	251 件	↘	235 件	240 件	横ばい
	公害相談件数	2,182 件	—	2,778 件	2,808 件	—
	公害関係法令に基づく改善指導件数	201 件	—	129 件	134 件	—
	「板橋区大気情報公開システム」アクセス件数	458,533 件	↗	1,730,951 件	1,011,394 件	進展
	環境調査に関する情報のツイッター発信数	25 件	↗	52 件	116 件	進展
	▶環境施策4-②：潤いのある景観や美しい街並みの保全					
	景観形成重点地区指定数	4 地区	↗	4 地区	4 地区	横ばい
	「板橋クリーン作戦」参加者数	18,721 人	—	21,034 人	20,436 人	—
	「板橋クリーン作戦」におけるごみ回収量	6,600 袋	—	7,137 袋	7,231 袋	—
路上禁煙地区(8地区)内の定点におけるたばこのポイ捨て月平均本数	1,300 本/月※5	↘	1,135 本/月	995 本/月	進展	
基本目標5	▶環境施策5-①：環境教育の推進、環境保全活動を担う人材の育成					
	環境講座・教室開催回数	677 回	↗	593 回	597 回	後退
	環境講座参加者数（人材育成に関わる講座を除く）	22,898 人	↗	19,527 人	22,751 人	横ばい
	環境学習講師派遣人数	363 人	↗	235 人	222 人	後退
	環境学習施設の入館者数	270,195 人	↗	285,761 人	302,074 人	進展
	環境講座受講前後の知識・考え方の変化	63 %※6	↗	66.9 %	67.4 %	進展
	▶環境施策5-②：わかりやすい環境情報の発信					
	区から発信する環境情報の更新回数	356 件	↗	1,145 件	1,493 件	進展
	環境イベント等開催回数	244 回	↗	207 回	222 回	後退
	環境イベント等参加者数	96,949 人	↗	32,076 人	44,178 人	後退
基本目標6	▶環境施策6-①：環境保全活動への参加や協働を進める仕組みづくり					
	ボランティアなどの協力を受入れたエコポリスセンター事業数	183 件	↗	147 件	165 件	後退
	自主講座支援回数	2 回	↗	2 回	1 回	後退
	喫煙マナーアップ推進員人数	157 人	↗	83 人	87 人	後退
	集団回収登録団体数【再掲】	883 団体	↗	906 団体	906 団体	横ばい
	地域がつくる公園制度導入公園数【再掲】	27 公園	↗	29 公園	28 公園	進展
花づくり活動登録グループ数【再掲】	83グループ	↗	81グループ	82グループ	横ばい	

※5：平成27年4月～平成28年1月までの10か月間の平均値

※6：平成28年度実績値

活動指標の主な成果

基本目標1：脱炭素社会の実現

➤ 平成30年度の主な成果

住宅等における新エネルギー・省エネルギー機器の導入を促進し、CO₂の年間削減量で450 tを上回る効果が得られた。

とりわけ、平成28年度から補助対象項目に追加された集合住宅共用部照明のLED化については、初年度から引き続き65件を超える補助実績を上げた。10か年計画で取り組んでいる街灯の更新及びLED灯の導入について、平成30年度は7,898基（うちLED化は7,885基）を更新した。

（関連するページ：P29、P30）

基本目標2：循環型社会の実現

➤ 平成30年度の主な成果

平成29年度から区内全域における不燃ごみの回収を実施し、平成30年度は、2,800 tを上回る不燃ごみが資源化された。

（関連するページ：P52）

基本目標3：自然環境と生物多様性の保全

➤ 平成30年度の主な成果

平成30年度は、「板橋区緑化の推進に関する条例」に基づく緑化指導制度による緑化完了の届出が92件あり、高木植栽1,487本、中木植栽6,660本などの実績があった。また、同制度により、地上部の緑化面積は15,478㎡、屋上の緑化面積は1,066㎡増加した。

（関連するページ：P63）

基本目標4：快適で健康に暮らせる生活環境の実現

➤ 平成30年度の主な成果

「大気情報システム」へのアクセス数は昨年度に引き続き基準年値より増

加となった。

（関連するページ：P89）

基本目標5：「環境力」の高い人材の育成

➤ 平成30年度の主な成果

環境イベント等の開催回数は昨年より多い222回行い、参加者数についても昨年より大幅に増加し44,178人となった。

（関連するページ：P132～）

基本目標6：パートナーシップが支えるまちの実現

➤ 平成30年度の主な成果

ボランティアなどの協力を受け入れたエコポリスセンターの事業については、「環境なんでも見本市」・「エコライフフェア」等のイベントや、「夏休みエコスクール」・「昔遊び」等の区民が講師となって提供する環境講座やワークショップなど、登録環境団体やエコライフサポーターの活動の機会及び場の提供を積極的に行った。

（関連するページ：P143～、P152～）